



かなざきひさの町政報告

www.kanazaki-hisa.com

第3回定例会報告 令和元年9月5日～10月9日

○ 10月1日より消費税10%に

○ 幼児教育・保育無償化について

国の方針として、幼児教育・保育無償化になりました。そのため
の条例改正などの議案が提出されました。しかし、肝心の「町立保育
所」に関する条例改正の出し忘れが発覚、急きょ、9月27日に本会
議が開かれ、その条例改正について審議しました。その冒頭、担当
部長が「失念していた」と謝り、町長に対する質疑も部長に答弁さ
せる状況でした

本会議でのかなざきひさの発言

最近、このようなミスが立て続けに起きている。人間はミスをする
ので、そのことを咎めるものではないが、町長の謝り方に問題があ
ると思う。町のトップとして、部下のミスとはいえ、町長名で議案等
を提出している以上、全責任は自分にあると真摯に謝るべきである。町長
のどこかに、このミスは自分ではない、部下の犯したものである、とい
う考えがあるのではないか。そのような対応をしている限り、これから
もミスは続く。議会は言い訳をする場ではない。町長が全責任をとって
申し訳ないと頭を下げれば、ミスをした部下も二度と町長に恥をかか
せてはいけなく、と反省し、気を引き締めて仕事に励むものである。

・幼児教育・保育無償化の問題点

保育所は、親が働いて「保育に欠ける」と判断された子が通
所している。

幼稚園は、基本的には「保育に欠けない」子が通園している。
今回の国の方針は、保育所、幼稚園、認定こども園に通ってい
る子の保育料の無償化である。そして、その他の幼児教育施設

に通っている子は「保育に欠ける」子のみが対象である。幼稚園・
認定こども園では「保育に欠けない」子を補助対象にしている
のにもかかわらず、何故、他の施設での「保育に欠けない」子
が無償化対象にならないのか。これは、国として、不公平な施
策であり、改正すべきだ。

○ 平成30年度決算の審査

・教育費の予算額9億4千万円の内、決算額8億8千万円。年度途中で
議会として、学校トイレの改修を指摘している。

教育委員会が真摯に受け止めていれば、6千万円を使って、その対
処ができたはずである。しかし、それを不用額として残し、トイレ
問題には手をつけていない。教育委員会には、子どもの気持ちを
第1に考えて欲しいと指摘しました。

○ 国への意見書提出

・「幼児教育・保育の無償化制度」に関する意見書

制度基準の見直しと対象の拡大を求めるものです。教育民生常
任委員会として、提出しました。

・海洋プラスチックごみの発生抑制・削減を求める意見書

かなざきひさが提出し、全議員が賛成者として署名をしました。

ふるさと納税について

寄附金合計一(経費+寄附金控除による減収)
=3552万円の赤字!

平成30年度はふるさと納税としての寄附金額3742
万円。経費は838万円(管理費・返礼品等)

ふるさと納税による寄附金控除による減収分から
実質収入を引くと3552万円の赤字となります。

結論 ふるさと納税により、町の収入を増額するには
寄附金収入が1億2000万円以上必要となります。

○ かなざきひさの一般質問（平成31年10月7日）



1 中学生・高校生議会について

質 問	答 弁
何を期待しての企画か。	子どもの声を聴くことと、子どもに意見発表の機会を講じること。(町長) 議会や調整の仕組みに触れ、学習機会と経験を積むことを主眼にしている。(教育長)
自分たちの趣旨に沿った運営になっているのか。	事前の学習会が大変意義深い。(政策財政部長)
学んだうえで、何故自分の言葉で話させないのか。事前に質問を文章で提出させ、その答弁を用意し、2回目の質問まで文章で提出させる必要があるのか。	やり取りの原稿があることで、ようやく発言できると聞いたことがある。(町長) 大枠を決めるだけでは、やり取りに詰まり、自信喪失につながる恐れがある。(教育長)
中高生議会の提案を実現させることは大いに意義深い。今回の中・高校生議会での発言の中で反映したことは。	図書館の勉強スペースの4分割した机を3台から7台に増設した。(教育部長)

ひさの考え

地球温暖化に対して16才のグレッタ・トゥーンベリさんがあれだけのことを自分の言葉で話している。子どもをもっと信頼してよいと思う。そして、中・高校生議会の役割は、子どもの目線で感じたまちづくりに対する思いを、行政が真摯に受け止め、行政運営に反映させていくことにあると思います。

2 海岸ごみについて

質 問	答 弁
海水浴シーズンの海岸ごみの現状は。	3割ほど減った。(都市経済部長)
フェイスブックによると凄まじい状況のように思うが。	写真を見、直接話も伺った。海水浴場の振り返りで協議し、提案を形に変えていきたい。(町長)
ごみ箱の設置に関しては。	現在は有人のエコステーションを設置し、生ごみは有料で海の家が受けている。(町長)
有料での生ごみ回収量と金額は。	データがない。(都市経済部長)
有人のエコステーションの経費は。	市町村振興協会からの補助金で賄っており、町の持ち出しは無い。(都市経済部長)
海水浴客が捨てて行くという前提で夏場の資源ステーションの特別な収集委託に100万円の経費をかけている。その予算で、海岸のごみは町内に出さないという施策に変更すべきではないか。	海の家は、多忙で分別指導などの課題があるが、可能性として決して無理ではないと思う。(町長)

ひさの考え

海岸で遊ぶ人々全てがモラルを持って、ごみを持ち帰ると問題は無いのですが、それを期待することは難しいと思います。行政としては、きれいな海岸を保つために、何をどうすれば良いのかと施策を練る必要があります。啓発だけでは、きれいな海岸にはならないということを認識すべきです。